

白河地区保護司会

会報 しらかわ

責任者
会長：三森 繁

サポートセンター
白河市表郷番沢字和田46-9
TEL 0248-21-5922

編集者：広報委員会
題 字：金澤 暎仁

会報アドレス
http://www.srkw.or.jp/~mimo/hogoshi/



『勝花亭』

— 西郷村指定有形文化財 —

白河藩主松平定信は、著書「関の秋風」で「白河へ至りて甲子のみざらんは、堂に入りて室にいらざるが如し…」と書いている。定信は、甲子の風光をたいそう愛し、しばしば足を運び勝花亭はその折りの休泊所であった。

保護司信条

私たちが保護司は、社会奉仕の精神をもって

一、公平と誠実を旨とし、過ちに陥った人たちの更生に尽くします。

一、明るい社会を築くため、すべての人々と手を携え、犯罪や非行の防止に努めます。

一、常に研鑽に励み、人格識見の向上に努めます。

平成六年五月制定



保護司になりて思うこと

白河地区保護司会
会長 三森 繁

昭和五十七年五月、当時の坂田道太法務大臣より保護司を拝命、三十五年が経過しました。まことに光陰矢の如しであります。

昨年三月十四日、東京千駄ヶ谷の更生保護会館におきまして、平成二十九年度、新規設置地区における更生保護サポートセンター運営協議会が開催され、四十二箇所の地区保護司会が集結いたしました。

平成二十八年十二月「再犯の防止等の推進に関する法律」が成立され、地域の安全安心は地域が責任を負うと定められたことから、地方公共団体にその責務を課すものです。

おります。新たな進展を生み出すための方法など、今後検討していく必要があります。また、役所、学校はもちろんのこと、様々な関係団体との結びつきを強めるためには、地区保護司会独自の体制を構築していく必要があります。このことにより、更生保護サポートセンターが大きな存在価値を示し、活気ある社会づくりに寄与することができると感じております。



会長あいさつ



- 第34回 県更生保護大会

・十一月七日
・郡山市
- 受彰者(白河地区)

全国保護司連盟理事長表彰
宇陀 大定

東北地方更生保護委員会委員長表彰
小松 捷夫
富重 恵子
門馬 幸子

東北地方保護司連盟会長表彰
大内 藤直
高藤 育雄

福島県知事感謝状
松尾 千鶴子
氏家 孝紀

福島保護観察所長表彰
後藤 邦雄
大塚 勢津子

福島保護観察所長感謝状
※民間協力者
有限会社 ヤマサ自動車整備工場
代表取締役 佐藤 隆一

この度、全国保護司連盟会長から保護司として表彰されましたことに對しまして、関係機関並びに関係者に対して衷心より御礼申し上げます。



受彰者代表
宇陀 大定

受彰者のことば

- 株式会社 大道技術設計
門馬 智幸

有限会社 いやさか
代表取締役 根岸 和幸

株式会社 阿部工業
代表取締役 阿部 一樹

福島県保護司連合会会長表彰
芳賀 憲市

『講演(要旨)』 『ふくしまの酒』 五年連続日本一

県ハイテクプラザ会津若松
技術センター醸造・食品科科长
鈴木賢二氏

吉田 茂典・記

講師の鈴木先生は福島県BBS連盟会長で、非行予防や過ちを犯した人達の社会復帰などに熱心に取り組んでいる方でもあります。

退任・新任保護司紹介

- 退任

・金澤 暎仁 (白河市)
平成29年5月31日

・中野 瑞弘 (矢吹町)
平成29年5月31日

・大木 宏典 (矢吹町)
平成29年11月30日

・氏家 孝紀 (矢吹町)
平成29年11月30日

・佐々木 國武 (白河市)
平成29年11月30日

た。県酒は、今や酒業界では追われる立場となっているのが現状です。五年連続日本一になったことにより、記念切手も発売され、昨年十一月、東京の赤坂迎賓館でのトランプ米大統領夫妻を招いての夕食会で県酒「ゆり」が出され、本県復興に向け明るい話題になっていきます。また、海外での日本食(和食)ブームに伴い日本酒の輸出が伸びていることからコメ消費拡大、原料自給率にも貢献されているとのこと。

編集後記

更生保護にあたる保護司会は、その存在と役割の理解を広める努力が求められており、とりわけ広報活動の重要性が強調されております。この広報紙が、その任務を少しでも果たすことができれば、担当した広報委員の喜びとするところです。



- 新任

・大竹 君江 (白河市)
平成29年6月1日

・松田 隆志 (西郷村)
平成29年6月1日

・篠宮 正巳 (白河市)
平成29年12月1日

・岡崎 利直 (白河市)
平成29年12月1日

・水戸 邦夫 (矢吹町)
平成29年12月1日

白河地区保護司会サポートセンター開所
その意義と役割

福島保護観察所保護観察官 高野 誠

平成二十九年七月十八日、白河市表郷番沢地内に「白河地区保護司会サポートセンター」が開所いたしました。関係する皆様の御尽力に對しまして、心から感謝を申し上げます。

サポートセンターは、犯罪や非行を犯した者がもう一度やり直すことのできる社会、ひいては犯罪や非行のない安心・安全な社会づくりをめざす更生保護活動の一層の活性化を図るため、平成二十年度から全国的に整備が進められており、保護司や保護司会が地域の諸団体と連携しながら更生保護活動を行うための拠点であります。

保護観察を受けている者やその家族との面接のほか、保護司同士の相談・交流、保護司会の打ち合わせ場所、地域住民を対象とした犯罪・非行防止セミナー、犯罪や非行に悩む方の相談窓口など、実に多くの機能が期待されています。



開所式
テープカット

らの期待や各保護司会のニーズにより様々な活用策が考えられますが、このサポートセンターを保護司等の更生保護関係者の皆様、地域の皆様と共に大きく育てて参りたいと考えております。

視察
研修

更生保護施設・震災復興の現場を視察

研修部長 小椋 栄一

昭和十七年開設の東北少年院は、閑静な住宅地にあった。基本四人の居住施設や食堂・体育館など、普段の生活を想像しながら見て回った。なかでも関心を集めたのは職業輔導といわれる課程。自動車整備、溶接、電気工事等、充実した設備と資格取得までコースが準備されており、意欲が伴えば社会復帰の大きな武器になると感じた。

研修に先立ち、名取市閑上にある日和山周辺を視察した。大震災当日のTV画面の中の悪魔のような大津波。土台のみを残し全てを奪われたその地に立ち、大自然の驚異的な力に心が震えた。感慨を新たに慰霊の碑に参拝した。縁もゆかりもないカナダ政府からの支援で建設されたという「メイプル館」に立ち寄り、復興支援の一助にと地元の商品を購入した。

二日目は仙台空港のあと、福島至道会へ。地元反対等で難産の末に完成した施設は、いろいろ行き届いた立派な施設であった。参加者は二十名であった。

研修旅行に参加して

鈴木 紳一

自然の爆発的エネルギーに驚き、為すすべもない人の弱さを感じていましたが、閑上地区、仙台空港の復興を見て、人の力も捨てたものでないと感じました。

次に、東北少年院で、通路の掲示作品群に感動しました。表



東北少年院

現には、触覚的と視覚的な方法がありますが、それぞれの特性を生かしたものであって、入所少年の個性を生かしての指導であるものと見てとれました。

一方、指導者も少年の持っている能力を、最大限に生かすべくと自らも研修に励み、指導・援助する姿に感動しました。至道会の援助も同様でした。

以前、オーケストラの演奏を聴く機会がありましたが、楽器が相い和し、すばらしいハーモニーを示し、美しい曲想を創り、感銘を得たのを思い出しました。少年らも社会に馴染み、社会に貢献することを期待したいものです。



「至道会」での講話

今年度の活動

1 第六十七回 社会を明るくする運動

(1) メッセージ伝達

総理大臣より各市町村長へ



南元観察所長より
円谷副市長へ



保護司、更生、少年補導員、
第一児童館の皆さん立ち合参加



矢吹町(7月3日)

三森会長より野崎町長へ



三森会長より加藤村長へ



三森会長より岡部副村長へ



三森会長より佐藤村長へ

(2) 街頭啓発活動

三班編成で大型店頭にて実施。南元観察所長、各種団体参加。



大型店頭でチラシ配布



市役所市民課窓口での広報



児童館の子どもたちが七夕飾りに参加

(3) 他団体との連携事業

(イ) 青少年健全育成活動
第三十八回小・中学生将棋大会



県大会予選会を兼ねる
白寿園



折原原グラウンド



大型店頭でチラシ配布



矢吹駅でチラシ配布

(ハ) 泉崎中学校・新一年生への
記念品贈呈



地区防犯指導隊と合同事業

(ニ) 青少年健全育成推進大会
市内八中学校の代表者が
発表



白河市文化交流館コメニスにて

(ホ) 学校訪問(矢吹町)
矢吹中学校訪問(七月三日)
矢吹中学校と地区保護司との
相談会実施。(作文コンク
ール健全育成全般にて)
(ハ) 夏休み座禅体験(西郷村)
万持寺(八月二〜三日)